

コーチング科学学位プログラム（博士後期課程）														
養成する人材像	<p>コーチングの理論と実践の新たな地平を切り拓く知的リーダーとして、独自の問いを立て、既存の枠組みを批判的に検討しながら、新たな概念や方法論を構築・提案できる研究者、コーチデベロッパーを養成する。学際的かつ国際的な視座のもと、体育・スポーツにおけるコーチングの在り方に対して構造的変革をもたらし、教育・実践・政策領域におけるイノベーションを推進する能力を備えた、学術と実践を架橋する専門職研究者の育成を目指す。また、高い倫理観と対話力をもって、次世代の学びを導く支援者としても、社会に貢献できることを期待する。</p>													
教育研究の特徴	<p>コーチング科学学位プログラムでは、競技特性や競技動作をバイオメカニクスのかつ生理学的手法を用いて解明し、一般化可能な理論を構築する量的研究と、トップアスリートや指導者を対象としたアクションリサーチ等により得られた事象を解明し、新たな理論を構築する質的研究の双方を通じて、コーチング学分野における先駆的研究を自立して遂行できる能力の養成を目的としたカリキュラムを編成している。</p> <p>本プログラムの教育課程は、博士論文の作成を中核として展開される。学生は、自身の研究テーマに基づき、論文構想の立案、研究計画の策定、研究成果の発表および討議を段階的に行いながら、研究を深化させる。とりわけ、「コーチング学特論演習」においては、複数教員とのディスカッションを通じて研究内容を多角的に検討し、批判的思考を養うとともに、論理的説明力および議論展開力を高める。</p> <p>また、3年間を通じて、研究の遂行方法および論文の執筆に関する継続的な指導を行い、独自の研究を主体的に推進する能力を体系的に涵養する。</p> <p>これらの科目の履修を通じて、コーチング学の理論と実践の双方に立脚した高度な専門的知識と研究能力を修得し、博士（コーチング科学）の学位取得を目指す。</p>													
修了後の進路	<p>大学教員／コーチデベロッパー／スポーツ関連研究機関職員／スポーツ競技団体職員／スポーツ関連機関職員／スポーツ関係企業人／スポーツコーチ／中学校・高等学校教諭（保健体育）／ジャーナリストなど</p>													
科目区分	年次・学期		1年次				2年次				3年次			
	前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期			
大学院共通科目	身体総合学術特論	2												
研究群共通科目	研究報告演習	2												
	英語論文ライティング (通年)		英語論文ライティング	2										
専修科目	コーチング学特論演習	2												
研究指導科目	コーチング科学研究Ⅰ (通年)		コーチング科学研究Ⅰ	2	コーチング科学研究Ⅱ (通年)		コーチング科学研究Ⅱ	2	コーチング科学研究Ⅲ (通年)		コーチング科学研究Ⅲ	2		
履修方法	<p>次の履修方法により、12単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 大学院共通科目: 2単位</p> <p>(2) 共通科目: 2単位</p> <p>※「研究報告演習」は必修</p> <p>(3) 専修科目: コーチング科学学位プログラムの科目から2単位</p> <p>(4) 研究指導科目: コーチング科学研究Ⅰ～Ⅲの6単位</p> <p>※研究指導教員が担当する科目を選択する。</p>													
修了要件	<p>3年以上在学し、各学位プログラムが定める修了に必要な授業科目を12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。</p>													
その他の学修・研究	学会発表		論文投稿 学会発表		論文投稿 学会発表		論文投稿 中間発表会 学会発表		学会発表		博士論文作成 博士論文審査 最終試験 最終発表会			